

ティーツーケー株式会社

物流業界の“働き方改革”時代における 小梱包ニーズに対応した「袋包装サービス」強化事業

ティーツーケーの主力は、物流業務を一括受託するサードパーティロジスティクス（3PL）。2006年に創業し、商品の入荷や仕分け、保管、梱包、発送などの実務をインターネット販売（EC）業者から受託することで、EC市場の伸びと合わせ成長してきた。業務効率化に向け、梱包を自動化する装置を2019年に導入。大型の立体自動倉庫を導入する計画も進めている。

会社概況

インターネットECの拡大に合わせ成長遂げる

3PLで創業し堅調に業績を伸ばしてきたティーツーケー。成長の要因は何よりもネット販売市場の拡大にある。ネット販売業は、背後に物流の実務があってこそ成り立つ。2012年には岡山に本社を置く有力古着販売業者と取り引きを開始し成長の牽引役となってきた。コロナ禍による「巣ごもり需要」で需要はさらに拡大、2020年6月には同社にとって過去最高の荷物発送個数を記録した。

足下ではコロナ禍の終了とともに発送数は横ばいから微減傾向だが「ネットでものを買う文化はなくなる」と榎尾有祐物流事業部部長。レーザーマーカによる名入れを組み合わせた物販、2020年に許可を取得した一般貨物自動車運送事業との3本柱で、さらなる成長を目指している。



倉敷市曾原にある同社最大の拠点、水島IC倉庫

事業内容

発送個数の急増受け、梱包作業を自動化へ

大口顧客であるこの古着販売業者は、全国に約50店の店舗を持ち発送業務の大半をティーツーケーで請け負う。古着は販売業者の買い取りセンターに集めて査定、売主がOKならば買い取る。

その後ティーツーケーの物流センターに送られ、同時にインターネットで出品される。ティーツーケーは古着を仕分けて単品管理して保管し、注文に応じて梱包・発送する。この顧客向けの荷物発送個数は、取り引きを開始した2012年当時月間1500個だったのが2019年には同4万個まで急拡大した。

そこで問題になったのが効率化だ。特にボトルネックだった梱包作業は、熟練者でも1時間に60個が限界。自動化が求められていた。



立体倉庫で商品を管理

事業成果

袋梱包でゴミ削減、 梱包・ラベル貼り大幅効率化

自動化と同時に荷姿を段ボールから袋に変更した。古着は柔らかく、袋梱包でも壊れない。「袋の方がゴミが減り喜ばれる」（榎尾物流事業部部長）のも理由。

装置は、当初計画の「FloWrap」から「Autobag AB850S」へと変更した。販売元の米シールドエアーがM&Aでラインアップに加えた袋梱包装置で、設置面積が小さく動作も確実なためだ。

新装置により、梱包とラベル貼りにかかる時間は1440分から100分へと大幅に短縮、ラベルの貼り間違いもなくなった。袋梱包の比率は65%から85%へと拡大し積載効率向上につながった。梱包自動化を成功させ、さらなる受注拡大に向け基盤を整えることができた。



導入した自動包装システム『Autobag AB850S』

ワンポイント

次世代の成長に向け、新しい立体自動倉庫を武器に

2023年8月に策定した中期経営計画で3年後に売上高50億円を目指す方針を打ち出した。伸びの中心は物流事業。榎尾物流事業部部長は「一緒に成長できる企業と、ECのリアル（実務）の部分を手伝いたい」と力を込める。

大きな武器が、2024年春に稼働予定の新しい立体自動倉庫。ピッキング作業を人手から多数のロボットに置き換える。先進的な設備は注目を集めそうだ。



物流事業部部長

まき お ゆう すけ

榎尾 有祐さん

会社概要 company profile

設立	2006年
資本金	300万円
代表取締役社長	栗山 豪利
従業員数	27人
売上高	12億3000万円(2023年8月期)

所在地	岡山県倉敷市福江41-4
TEL	086-485-2101
FAX	086-486-3369
URL	https://www.t2k.ne.jp/